

令和4年度 羽島郡二町教育委員会 教育指針「方針と重点」(後期 中間評価12月)

【岐南中】学校

様々ななかかわりの中で学び、社会の一員として貢献できる社会人の育成 ～「家庭・社会の期待に応え、夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要な力の育成」と「個性や能力を発揮して活躍し、学び続ける、活力と連帯感のある人づくり」～											
評価内容						評価…4段階 A:75%～ B:74%～60% C:40%～59% D:～39%)					
No	基本目標	施策	重点内容	評価内容（教師用）	評価	%	児童生徒用評価内容	評価	%	改善の手立て	
目標1	夢と自信をもち、可能性に挑戦するために必要な力の育成	①ねらいや学習方法、内容等を明確にし、学びの過程の質的向上を図った授業実践	ア:ねらいや評価規準を+D4:D13明確にし指導・評価・補充のサイクルを意識した責任ある指導（「授業マニフェスト4」の徹底）	□ねらいや評価規準を明確にし、達成のため、学習状況見届けの方途をもって授業に臨み、授業終末には児童生徒の学習姿勢や教科の学び方を評価することで、児童生徒が自らのよさや成長を実感できる授業づくりに努めている。	A	80.6%	□自分の考えや、できるようになったことや分かったことを、実演や発言などで仲間に伝えたり、ノートに書いたりしていますか。	A	75.9%	授業の評価規準を明確にし、それに向かう素章活動を位置付けて取り組むよう、職員会や全校研究会の機会等、継続的に教職員で共通理解を図ってきた。今後も「授業マニフェスト4」の内容も含めて実践していけるよう、具体的な姿を紹介しながら授業改善に取り組んでいく。	
			ウ:授業→復習→授業のサイクルを習慣化し、学力を高める家庭学習の充実（家庭学習の習慣化）	□学校の授業と家庭での学習のつながりができるように家庭学習について指導の充実に努めている。	B	63.0%	□進んで家庭学習に取り組み、できることや分かることを確かめたり、増やしたりしていますか。	B	67.8%	自主学習の取組を全校的に進めているが、毎日の家庭学習については教科担任、長期休業については学年会にて確認をしながら、効果的な家庭学習に向かう指導を進めつつある。タブレットの活用も含めて家庭学習の取組を継続していく。	
		②豊かな心の醸成	ア:物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業	□児童生徒が自己の生き方についての考えが深まるよう単位時間の授業の指導方法の改善に努めている。	A	77.8%	□自分の思いや考えと仲間の考えや思いを比べたり、仲間の思いや考えを聞いたりして、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしていますか。	A	76.1%	仲間の考えや思いを比べたり、表現していくことについて、道徳の授業交流を行い、指導方法の改善を図ってきた。また、互いに道徳の授業を参観し合い、学び合う場を位置付けつつ、実践を進めている。	
		③運動に親しみ、進んで健康安全に取り組む指導	イ:タイムマネジメントでき、自らの健康管理ができる指導	□家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりが構築できるよう指導している。	B	72.2%	□十分な睡眠をとり、朝食を食べて登校していますか。	A	77.8%	健康管理や食育について校内放送等で啓発し、「保健だより・給食だより」を発行し意識を高めることや健康チェックシートを継続し、健康管理への意識付けを継続している。	
		④国際理解教育の推進	ア:小学校の担任による外国語活動の実践（小学校） イ:All Englishによる授業の実践（中学校）	□英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする活動を位置付けている。（小中） □生徒の発達段階を踏まえたAll Englishの授業を行っている。（中）	B	73.3%	□英語を使って進んでコミュニケーションをしていますか。 □英語の授業では、ほぼ英語だけで学習しようと努めていますか。（中）	B	65.2%	全校研究会の取組も含め、英語科として、コミュニケーション活動の形態を設定し、「実際の英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を英語学習の中核にすることを意図して実践を進めている。	
		⑤特別支援教育の充実	ア:保護者、医療、福祉等関係機関との多様な連携協力を通して、一人一人の育ちを支援する教育の充実	□配慮を要する児童生徒に対して、具体的な配慮事項を明らかにし、それに応じた指示や教材教具の提供等、指導支援を工夫改善している。	B	73.1%				生活や学習に困り感のある生徒の状況を把握するとともに、適切な支援を行っていくため、学年会や教育支援員会を随時行うようにする。特に、教科担任会での個への働きかけについて共通理解を図る場を大切に進めている。	
目標2	他者と共に社会の持続的な発展を牽引できる多様な力の育成	①キャリア教育・立志教育の推進	イ:一人一人の願いを支援し、自己充実感につなぐ指導	□児童生徒の言動のよさを認めると共に、その言動に至る願いや思い、過程等のよさを価値付けている。	A	81.5%				教師から生徒、生徒どうしのよさをみつけることとよさをひろげる目的の「グッドレポート」や「よかったよカード」などを活用して生徒の活動を価値付け、さらにその姿と心が仲間に広がっていくことを願い、生徒に働きかけ続ける。	
		②リーダーを育成し、児童会や生徒会の充実を図る	ウ:学級や児童会・生徒会役員等との懇談を充実し、願いを実現につなぐ指導	□児童会等、リーダーの願いを学校内で共有する場を位置付け、目指す姿の具体を共有する等して、学級・学年・学校全体でその実現に向け支援している。	A	77.8%	□よりよい学級をつくろうと、目標に向かって仲間と共に話し合ったり、活動したりしていますか。	A	75.9%	日常生活の取組や行事をきっかけとして、生徒と共に目指す姿を共有し、学年・学級のリーダーを中心に、話し合い、活動し、振り返り次へ次へすすきを進意的に進めてきた。職員の間でも、現状の把握や見通しの確認を進めていく。	
		③各学校の特色ある活動の推進	イ:児童生徒が自治的で自立的な活動をつくりあげる指導	□「柱となる活動」の目指す姿の具体を児童生徒と共通理解し、児童生徒が自慢とする活動になるよう、常に願いや具体的な目指す姿と活動を結びつけて価値付けている。	B	74.1%	□学校の自慢を言えますか。その自慢をもっと自慢にできるよう活動していますか。	B	66.9%	1月には、「岐南中四本柱を考えろ」テーマ取組を生徒会中心に進め、これまでの行事や日常的なキャンペーンと関わらせて活動の意味や価値について考える場をつくり、生徒自ら誇りをもてるよう継続的な指導を行っていく。	
		④児童生徒の自己指導能力を高める指導	ウ:自分のよさを客観的な資料をもとに仲間や保護者に自分のことばで伝える懇談の充実	□毎日の生活や学習、各種行事等の教育活動を通して、児童生徒のよさや成長を見出し、評価することで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導援助に努めている。	A	79.6%	□自分が立てた目標に向かって、仲間とかかわりながら粘り強く取り組んでいますか。	A	77.0%	これまで事前の目標づくり、中間評価、事後評価を位置付けるとともに、その内容を学級目標と関わりをもたせることで、行事や常時活動が、継続的なものとなり、評価を振り返りながら修正できるよう進めてきた。仲間とかかわりの中で、変容してこれた自分の姿に気付かせる指導を進めていく。	
		⑤いじめ・不登校防止や解決のための継続的な指導	ウ:いじめの早期発見と組織を生かした継続的な指導	□「いじめ」に係る人権感覚を高め、児童生徒の状況を把握するとともに、意図的な取組による個の居場所づくりと集団の絆づくりに努めている。 □児童生徒の状況の把握や早期の相談の機会の設定等、未然防止策を全職員で取り組んでいる。	A	84.7%	□仲間が嫌だなと感じることを言ったり、したりせず、仲間がうれしいな、もっとがんばりたいなどと思うようなことを言ったり、したりしていますか。	A	80.8%	岐南中人権宣言をもとにして、「マイノリティー」を窓口として人権集会に向かう話し合い活動等、取組を進めた。また、早期発見については、二者懇談や心のアンケートを活用して探っていく。また、三者懇談での保護者からの聞き取りも有効に活用するようにしている。	
目標3	生涯学び、生かし、活躍できるようなスポーツ・文化など学びの環境の整備	②年齢を縦に繋いだ地域の教育力の向上	エ:学校運営協議会を柱とした地域と共にある協働の学校の仕組みづくりの充実	□地域学校協働活動推進員と連携し、児童生徒が地域で学ぶ機会に参加できるように働きかけている。	B	63.0%	□地域の様々な行事に進んで参加したり、地域の方と触れ合ったりしていますか。	C	45.2%	コロナ禍で地域行事が中止となったため、参加する機会がなかった。今後の地域の状況を踏まえ、機会をとらえて生徒に啓発を進めていく。	
		③家庭の教育力の向上	ア:ボランティア手帳の活用と一家庭一ボランティア実践	□学校や家庭・地域のボランティア活動の意義を語り参加するよう児童生徒に働きかけている。 □ボランティア手帳を効果的に活用させている。	B	63.0%	□学校や家・町内でのボランティアに進んで参加していますか。	C	50.1%	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、地域行事などボランティアをする機会がなかったが、学校や家でのボランティアに進んで取り組めるよう、手帳も活用しながら機会を見つけ働きかけていく。	
		⑥豊かな心を育む教育の推進	ア:今日的な人権課題に基づいた人権教育の推進	□児童生徒に寄り添い、適切な言動で指導・援助している。	A	81.1%	□学校や家や近所で「あったか言葉」を使って話していますか。	A	76.5%	人権課題についてのアンケートを含め、道徳の時間にも「あったか言葉」について考える場をもつ。学級活動や短学活においてもよさを広めていく。	
目標4	学びや育ちを支え、誰もが社会の担い手となるセーフティネットの構築	①健康な体づくりの推進	ウ:学校生活管理指導票の作成と活用	□学校生活管理指導票をもとにして、該当児童生徒をはじめ、配慮を要する児童生徒を確実に把握し、保護者との面談等を通して確実に対応している。	A	75.0%				エビベン研修を全職員で実施し、管理表をもっている生徒の状況を学年所属職員等で共通理解する場をつくり、アレルギー対応等、危機感をもって確実に対応できるよう進めている。今後も、このような形で対応を進めていく。	
		②学校防災体制の充実	ア:場・時・役割や想定を幅広く考え、工夫して行う防災訓練（命を守る訓練等）の実施	□場や時などを幅広く想定した「命を守る訓練」等を実施する目的や意義を自分事として捉える指導や、各教科での防災に係る指導等を行い、年間を通して、児童生徒自らが危険を回避する力を高められる指導を行っている。	A	79.3%	□「命を守る訓練」等では、自分の命は自分で守ろうと、自分で考えて行動したり、進んで真剣に取り組んだりしていますか。	A	88.5%	総合的な学習や学級活動、研修旅行における学習時等に、想定される具体的な災害について考える機会を設ける。また、主体的に考え行動することの大切さを学ぶ機会を設ける。その上で、実際に「命を守る訓練」を行っていく。2月には、突然災害が発生する状況や想定外の状況での訓練を意図的に行う。	
		③いかなる状況下でも「自分の命は自分で守る」意識の醸成	イ:自転車の安全利用の推進、損害保険への加入等、交通安全意識の高揚	□全教育活動を通して、交差点ではドライバーとアイコンタクトするなど、「自分の命は自分で守る」意識を高める指導を行っている。	B	74.8%	□自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶっていますか。 □交差点では、「ドライバーとのアイコンタクト」に心がけていますか。	A	93.7%	ヘルメット着用をはじめ、交通ルールを守ることが当たり前になるように、日々放送や朝の会などの機会を設けて、生徒に指導してきている。今後も自転車運転に関するマナーなどの映像などを用いた指導を継続して行う。	
		④学校施設設備の整備	イ:学校安全点検の実施と確実な修理	□「手」、「目」、「耳」で確かめるなど、遊具や運動施設の安全について確実に確認している。 □普段あまり使用しない設備も含め、設備すべての危険箇所・修繕箇所の状況を把握し、確実に対応している。	B	73.7%	□けがをしないように約束を守って、学校の遊具、サッカーゴールなどの施設や道具を使っていますか。	A	93.6%	生徒の安心安全を確保するために、毎月の備品設備の安全点検だけでなく、その都度、教職員が生徒の行動を予期しながら、環境に対する変化を察知するとともに、改善を図るようにする。また、生徒も環境の変化に気づいたときに、教員に報告や相談できるような関係性を続ける。	
		⑤情報活用能力の育成	ウ:ICT及びデジタル教材等の効果的な活用による学びの充実	□興味・関心を高め、「できた、分かった授業」につなげるため、デジタル教科書や電子黒板等を積極的に活用している。	A	83.8%	□電子黒板や書画カメラなどを使ったことで、より勉強が分かるようになりましたか。	A	75.4%	デジタル教科書・書画カメラ・電子黒板・タブレットが多くの授業で活用されている。教科の授業や特活、生徒会活動等で、生徒がPCタブレットを活用する場が非常に増えてきている。	